

総合防除（IPM）を行うために利用できる防除技術（花き）

作物名	病虫害名	防除技術
花き類	病虫害全般	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 前作の作物残さの処理（施設における蒸し込み、残さの焼却、埋没等）を行う。</li> <li>2 ほ場内や周辺の除草を行い、ほ場衛生に努める。</li> <li>3 土着天敵に影響の少ない薬剤を使用し、害虫の密度抑制を図る。</li> <li>4 防除資材を活用する(別表参照)。</li> <li>5 病虫害に強い品種を選択する。</li> <li>6 健全な苗（親株）を使用する。また、苗（親株）を購入する場合には、一定期間育苗し、病虫害の発生の有無を確認することが望ましい。</li> <li>7 育苗においては、病虫害に汚染されていない培土及び資材を用いる。</li> <li>8 作物の栽培に適した水はけの良いほ場を選択する。水田と輪作を行っているようなほ場では排水が悪いことから、高畝又はほ場周辺に溝を設置する等の排水対策を実施する。</li> <li>9 性フェロモン剤による交信かく乱、防蛾灯（黄色灯）の夜間点灯により、ほ場内への害虫の侵入を防止する。</li> <li>10 必要に応じて土壌診断を行い、診断結果を参考にして適正な施肥を行うとともに腐食含有率を高めるよう努め、栽培に適した土づくりを行う。</li> <li>11 土壌伝染性の病害や線虫の発生が懸念されるほ場においては、植え付け前に土壌消毒を行う。</li> <li>12 ウイルス病やウイロイド病、細菌病の発生が懸念される場合は、媒介しないようにはさみ等の農業用資材の消毒等を行う。前作において病気が発生したほ場においても、必要に応じて農業用資材を消毒する。</li> <li>13 発病部位を速やかに除去し、土中に埋める等適切に処分する。特に防除が困難なウイルス病、ウイロイド病等の発病株を発見した場合には、早急に抜き取り、ほ場外で土中に埋める等適切に処分する。</li> <li>14 生物農薬を活用する。</li> <li>15 生育初期において病虫害の多発生が予測される場合には、予防効果のある薬剤を散布する。</li> </ol>
	ヨトウ類（ハスモンヨトウ・シロイチモジヨトウ・ヨトウガ） オオタバコガ	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 施設栽培では開口部を目合い4mm程度の防虫ネットで被覆し、成虫の侵入を防止する。</li> <li>2 黄色防蛾照明技術を利用する。その場合、作物全体を黄色の光（1ルクス以上）で覆い、陰になる部分が出来ないように注意する。</li> </ol>

作物名	病害虫名	防除技術
花き類	ヨトウ類 (ハスモンヨトウ・シロイチモジヨトウ・ヨトウガ) オオタバコガ	3 卵塊・幼虫を見つけ次第捕殺する。 4 ほ場内及びその周辺の雑草防除に努める。 5 交信かく乱剤を使用する。 6 ハスモンヨトウ、シロイチモジヨトウは、性フェロモントラップへの誘殺数ピークから7～10日後に防除を行う。 7 施設栽培においては、栽培終了後に蒸し込み処理を行う。 8 作物残さを適切に処分する。
きく	白さび病	1 病気に強い品種を選ぶ。 2 発病している親株からは採穂しない。 3 発病苗は利用しない。 4 発病葉は摘み取り、焼却する。 5 施設内換気を行い、多湿を防ぐ。 6 マルチを利用する。 ※露地では、梅雨期や秋雨後の発生が多い。
	キクえそ病 (TSWV) キク茎えそ病 (CSNV)	1 ウイルスの感染が疑われる苗は、廃棄する。 2 媒介虫であるミカンキイロアザミウマを防除する。 ※下記「アザミウマ類」及び別表「防除資材」の項を参照する。
	黒斑病	1 下葉をかき取り、通風を良くする。 2 発病している親株からは採穂しない。
	灰色かび病	1 窒素肥料の多用を避ける。 2 排水と通風を良くし、多湿を避ける。 3 発病した茎葉や花は摘み取り、焼却する。
	アザミウマ類	1 ほ場内及びその周辺の雑草及び作物残渣を適切に処分する。 2 赤色系ネットを使用すると侵入防止効果が高まる。 3 施設栽培においては、防虫ネット、紫外線除去フィルム、シルバーマルチ、粘着シート等の活用により、本虫の施設内への侵入を防止する。 4 マルチの敷設により、土中での蛹化を防ぐ。
ばら	うどんこ病	換気と暖房による施設内の適正な温湿度管理に努める。
	黒星病	発病した葉や枝及び落葉は除去し、焼却する。
	べと病	温風機や除湿機の利用等により、湿度を下げる。
	ハダニ類	高温、乾燥にならないようにする。
りんどう	褐色根腐病	排水対策を十分に行う。
	茎枯病	
トルコギキョウ	葉巻病	1 発病株は見つけ次第、除去する。 2 残さは埋却処理する。

作物名	病害虫名	防除技術
トルコギキョウ	葉巻病	3 ノゲシ、ウシハコベ等雑草にも感染するため除草を徹底する。 4 媒介虫であるタバココナジラミを防除する。また、施設内への侵入を防ぐ。 ※別表「防除資材」の項を参照する。 5 栽培終了後は作物が完全に枯死するまで施設を密閉して、タバココナジラミの施設外への脱出を阻止する。
	えそ輪紋病	1 発病株は見つけ次第、除去する。 2 媒介虫であるネギアザミウマを防除する。また、施設内への侵入を防ぐ。 ※別表「防除資材」の項を参照する。

別表 防除資材

対象病害虫	資材の種類	使用方法	効果
アザミウマ類 ハモグリバエ類	防虫ネット (目合い0.8mm以下)	育苗床被覆 施設入口、換気部被覆	侵入防止
	近紫外線除去フィルム	ハウス被覆	
アザミウマ類	光反射マルチ	畝、通路面被覆	飛来抑制
	粘着シート、粘着テープ (青または黄色)	(粘着シート) 株元、草冠部に被覆	大量補殺 早期発見
ハモグリバエ類 コナジラミ類	粘着シート、粘着テープ (黄色)	(粘着テープ) 施設周辺に張り巡らす	
コナジラミ類	防虫ネット (目合い0.4mm以下)	育苗床被覆 施設入口、換気部被覆	侵入防止
アブラムシ類	シルバーマルチ シルバーテープ	畝、通路面被覆 ほ場周辺に張り巡らす	忌避

注 防虫ネットの利用により施設内の気温が上昇する傾向がある。また、光反射マルチやシルバーマルチの利用により地温の上昇が抑制される傾向がある。そのため、作物の生育への影響に注意する。